

地域総合医学 保健医療福祉コース

担当講座	総合診療医学講座	問合せ先	共通基盤看護学講座
分野責任者	下沖 取 教授	連絡先	内線5400
担当教員	(総合診療医学講座) 下沖 取 教授、大間々 真一 准教授、高橋 智弘 講師、山田 哲也 助教、遠藤 秀彦 非常勤講師、菊地 大輝 非常勤講師、加藤 博孝 非常勤講師、高橋 宗康 非常勤講師、坪井 潤一 非常勤講師、岡田みずほ 非常勤講師、伊藤達朗 非常勤講師 (産婦人科学講座) 小山 理恵 特任教授 (共通基盤看護学講座) 菰浦澤 幸子 教授、佐藤 奈美枝 准教授、伊藤 奈央 准教授、(地域包括ケア講座) 遠藤 太 教授、岩淵 光子 教授、野里 同 准教授、熊地 美枝 准教授 (成育看護学講座) 高橋 亮 教授、蛸崎 奈津子 教授、遊田 由希子 特任教授 (看護専門基礎講座) 遠藤 龍人 教授		
人材育成の 基本理念	保健医療福祉分野の臨床的、実践的な視点から、地域のあらゆる人たちに対しての支援ならびに諸問題を解決することができる人材を育成する。また、多職種の人々と連携・協働できる学際的能力を身につけた人材を育成する。		
主な研究内容	保健、医療、看護、福祉、健康に関して多角的かつ学際的に研究する。		
教育成果 (アウトカム)	教育成果 ① 保健医療福祉に関する最新の知見を学ぶことで、現状と課題を認識することに到達する。 ② 研究を行う基本的能力を身につけ、自ら研究課題を立案、研究を遂行することで、直面している課題の解決方法を見出すことに到達する。 ③ ①②の教育成果から保健医療福祉分野の諸問題を解決することができる人材に到達する。	該当するディプロマポリシー 1,2,3,4,5,6	
	到達目標	対象科目	
到達目標	(1)生命科学や、医療行為のための基本的な知識・技能を学び、活用できる。	医学概論、メンタルヘルスクエア特論	
	(2)計画に従って適切な研究を実施できる。	特別研究Ⅰ・Ⅱ	
	(3)研究結果を適切にまとめ、発表できる。	総合診療医学Ⅰ、特別研究Ⅰ・Ⅱ	
	(4)高い専門知識や熟練した技能・技術で、多職種連携業務に貢献できる。	地域医療学Ⅰ・Ⅱ、多職種連携チーム医療、保健医療福祉組織管理特論、保健医療福祉人材管理特論、保健医療福祉経営資源管理特論、保健医療福祉情報管理特論、ヘルスコミュニケーション特論、ヘルスコミュニケーション演習、緩和ケア特論、高齢者健康科学特論、臨床実践ケア特論、メンタルヘルスクエア特論、ケアの倫理特論、コンサルテーション特論、地域包括ケア特論、ヘルスプロモーション特論、子ども保健医療福祉学特論、国際保健医療学特論、ウィメンズヘルスクエア特論、健康情報学特論、子ども保健医療福祉学演習、国際保健医療学演習、保健医療福祉課題解決演習Ⅰ、保健医療福祉課題解決演習Ⅱ	
	(5)次世代の育成に貢献できる。	特別研究Ⅰ・Ⅱ、ケアの倫理特論、コンサルテーション特論	
	(6)保健医療福祉分野に関する科学論文を講読することができる。	総合診療医学Ⅰ・Ⅱ、地域医療学Ⅰ、保健医療福祉組織管理特論、保健医療福祉人材管理特論、保健医療福祉経営資源管理特論、保健医療福祉情報管理特論、ヘルスコミュニケーション特論、ヘルスコミュニケーション演習、緩和ケア特論、高齢者健康科学特論、臨床実践ケア特論、メンタルヘルスクエア特論、ケアの倫理特論、コンサルテーション特論、地域包括ケア特論、ヘルスプロモーション特論、子ども保健医療福祉学特論、国際保健医療学特論、ウィメンズヘルスクエア特論、健康情報学特論、子ども保健医療福祉学演習、国際保健医療学演習、保健医療福祉課題解決演習Ⅰ、保健医療福祉課題解決演習Ⅱ	
	(7)高度な専門的知識と倫理観をもつ実践力を身につけることができる。	地域医療学Ⅰ・Ⅱ、保健医療福祉組織管理特論、保健医療福祉人材管理特論、保健医療福祉経営資源管理特論、保健医療福祉情報管理特論、ヘルスコミュニケーション特論、ヘルスコミュニケーション演習、緩和ケア特論、高齢者健康科学特論、臨床実践ケア特論、メンタルヘルスクエア特論、ケアの倫理特論、コンサルテーション特論、地域包括ケア特論、ヘルスプロモーション特論、子ども保健医療福祉学特論、国際保健医療学特論、ウィメンズヘルスクエア特論、健康情報学特論、子ども保健医療福祉学演習、国際保健医療学演習、保健医療福祉課題解決演習Ⅰ、保健医療福祉課題解決演習Ⅱ	
	資格取得等	特になし。	
	履修に関する 情報	勤務等で講義に出席できない場合は、日程調整等に応じる。	

●在学中に履修できるカリキュラム

区分		配当年次	科目名		開講	コマ数	単位	修了までに 必要な単位	備考
研究特論	選択必修	1年	講義	総合診療医学1	通年	8	1	20単位	※20単位以上の取得可
		1年	講義	地域医療学1	通年	8	1		
		2年	演習	総合診療医学2	通年	8	1		
		2年	演習	地域医療学2	通年	8	1		
		1・2年	講義	保健医療福祉組織管理特論	通年	15	2		
		1・2年	講義	保健医療福祉人材管理特論	通年	15	2		
		1・2年	講義	保健医療福祉経営資源管理特論	通年	15	2		
		1・2年	講義	保健医療福祉情報管理特論	後期	8	1		
		1・2年	講義	ヘルスコミュニケーション特論	通年	8	1		
		1・2年	演習	ヘルスコミュニケーション演習	通年	15	2		
		1年	講義	緩和ケア特論	通年	15	2		
		1年	講義	高齢者健康科学特論	前期	8	1		
		1年	講義	臨床実践ケア特論	前期	15	2		
		1・2年	講義	メンタルヘルスクエア特論	通年	15	2		
		1年	講義	ケアの倫理特論	後期	8	1		
		1年	講義	コンサルテーション特論	通年	15	2		
		1・2年	講義	地域包括ケア特論	通年	15	2		
		1・2年	講義	ヘルスプロモーション特論	後期	8	1		
		1年	講義	子ども保健医療福祉学特論	前期	15	2		
		1・2年	講義	国際保健医療学特論	後期	15	2		
		1・2年	講義	ウィメンズヘルスクエア特論	後期	15	2		
		1年	講義	健康情報学特論	後期	8	1		
		2年	演習	子ども保健医療福祉学演習	通年	15	2		
		2年	演習	国際保健医療学演習	通年	15	2		
		1・2年	演習	保健医療福祉課題解決演習Ⅰ	通年	15	2		
		1・2年	演習	保健医療福祉課題解決演習Ⅱ	通年	15	2		
必修	必修	1年	演習	特別研究Ⅰ（中間審査）	通年	15	2	4単位	
		2年	演習	特別研究Ⅱ（論文作成）	通年	15	2		

※他分野の単位取得は分野責任者に相談の上、教務課へ連絡してください。

●各科目の授業計画

地域総合医学 保健医療福祉コース

[illegible]

コード	MM12261050					MM12261070					MM12261080					MM12261090				
科目	保健医療福祉組織管理特論					保健医療福祉人材管理特論					保健医療福祉経営資源管理特論					保健医療福祉情報管理特論				
科目責任者	菖蒲澤幸子					佐藤奈美枝					菖蒲澤幸子					菖蒲澤幸子				
担当者	菖蒲澤幸子					佐藤奈美枝					菖蒲澤幸子、高橋亮、岡田みずほ					菖蒲澤幸子				
会場	矢巾キャンパス					矢巾キャンパス					矢巾キャンパス					矢巾キャンパス				
区分等	区分	講義		単位	2	区分	講義		単位	2	区分	講義		単位	2	区分	講義		単位	1
	回数	通年15コマ		配当年次	1・2	回数	通年15コマ		配当年次	1・2	回数	通年15コマ		配当年次	1・2	回数	後期8コマ		配当年次	1・2
主な授業内容	組織運営に関する諸理論 組織における人間の行動 保健医療福祉分野での組織管理					キャリア開発における基本概念 役割理論および動機づけ理論 リーダーシップとメンバースhip 個人の学習と組織における教育					社会保障制度の動向 保健医療福祉分野における制度政策 保健医療福祉分野における経済学的視点					保健医療福祉の情報化の変遷と現況、情報倫理、情報リテラシー、情報保健医療福祉の情報化の将来				
教育成果	組織運営に関する諸理論、組織における人間の行動について理論を学び、さらに、質の高いケアを提供するために保健医療福祉分野での組織管理の知識を修得することで、管理者として必要な知識を身につけることに到達する。					人材管理に影響する要因や諸理論を学び、人材管理の専門知識やリーダーシップ能力を活用したアプローチを修得することで、組織の人材定着を促す方略を見出すことに到達する。					社会保障制度の動向を踏まえ、保健医療福祉分野における制度政策を学び、併せて、保健医療福祉分野における経済動向に関する知識を修得することで多角的な視野を持つことに到達する。					ICT化が急速に発展している保健医療福祉の情報化の変遷と現況を学び、保健医療福祉分野で必要な、最新の情報倫理、情報リテラシーを修得することで保健医療福祉の情報化の将来の姿を述べることに到達する。				
コピィ添削番号/達成度	コピィ添削1 B	コピィ添削2 B	コピィ添削3 B	コピィ添削4 B	コピィ添削5 C	コピィ添削1 B	コピィ添削2 A	コピィ添削3 A	コピィ添削4 A	コピィ添削5 B	コピィ添削1 B	コピィ添削2 B	コピィ添削3 B	コピィ添削4 C	コピィ添削5 C	コピィ添削1 B	コピィ添削2 B	コピィ添削3 B	コピィ添削4 B	コピィ添削5 C
特記事項	各講義に対する事前事後学修は4時間程度を要し、内容は担当教員に確認すること。 全講義後終了後は速やかに「受講票・履修報告書」をWeb Classにアップロードすること。 「受講票・履修報告書」の記載が不十分な場合は、担当教員がコメントをつけて返却するので、期日までに再提出すること。 ＜当該科目に関連する実務経験の有無 有＞ 大学病院等における看護師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。																			
評価方法	「受講票・履修報告書」により評価する。成績は、ABCD（A:100～80点、B:79～70点、C:69～60点、D:59～0点）の4段階評価とし、ABC（60点以上）を合格とする（60点未満は再提出）。																			
講義日程	時間割参照																			
教科書参考書																				

●各科目の授業計画

地域総合医学 保健医療福祉コース

コード	MM12261120				MM12261130				MM12261290							
科目	ヘルスコミュニケーション特論				ヘルスコミュニケーション演習				緩和ケア特論							
科目責任者	伊藤奈央				佐藤奈美枝				伊藤奈央							
担当者	伊藤奈央、佐藤奈美枝				佐藤奈美枝、伊藤奈央、山田哲也				伊藤奈央							
会場	矢巾キャンパス				矢巾キャンパス				矢巾キャンパス							
区分等	区分	講義	単位	1	区分	演習	単位	2	区分	演習	単位	2				
	回数	通年8コマ	配当年次	1・2	回数	通年15コマ	配当年次	1・2	回数	通年15コマ	配当年次	1				
主な授業内容	コミュニケーションの基本と特性 ヘルスコミュニケーションの概念				患者・医療者関係とコミュニケーション 行動変容を促すコミュニケーション				緩和ケアに関する文献検索と抄読、エビデンスを臨床に活用するための方策の検討							
教育成果	ヘルスコミュニケーションの概念について学ぶことで、保健医療福祉の場面で様々な課題をもつ対象者の立場に配慮したコミュニケーションスキルをの修得に到達する。				ヘルスコミュニケーションについての知識・スキルについて学ぶことで、患者と医療者との協働健康教育における戦略的視点の修得に到達する。				臨床疑問に基づいた緩和ケアにおける学術論文を精読し、緩和ケアに関する最新のエビデンスを収集および解釈することで、臨床に活用するための方策を見出すことに到達する。							
コンピテン্স番号/達成度	コンピテン্স1 B	コンピテン্স2 A	コンピテン্স3 B	コンピテン্স4 A	コンピテン্স5 B	コンピテン্স2 A	コンピテン্স3 A	コンピテン্স4 A	コンピテン্স5 B	コンピテン্স1 B	コンピテン্স2 B	コンピテン্স3 B	コンピテン্স4 B	コンピテン্স5 B		
	コンピテン্স6 A				コンピテン্স6 A					コンピテン্স6 A						
特記事項	各講義に対する事前事後学修は4時間程度を要し、内容は担当教員に確認すること。 全講義後終了後は速やかに「受講票・履修報告書」をWeb Classにアップロードすること。 「受講票・履修報告書」の記載が不十分な場合は、担当教員がコメントをつけて返却するので、期日までに再提出すること。 ＜当該科目に関連する実務経験の有無 有＞ 大学病院等における看護師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。															
評価方法	「受講票・履修報告書」により評価する。成績は、ABCD（A:100～80点、B:79～70点、C:69～60点、D:59～0点）の4段階評価とし、ABC（60点以上）を合格とする（60点未満は再提出）。															
講義日程	時間割参照															
教科書参考書	・石川ひろの.保健医療専門職のためのヘルスコミュニケーション学入門,大修館書店,2020 ・グループマン・ジェローム他(堀内志奈訳).決められない患者たち,医学書院,2013 *その他の書籍については随時紹介する															

コード	MM12261140					MM12261150					MM12261160					MM12261170				
科目	高齢者健康科学特論					臨床実践ケア特論					メンタルヘルスケア特論					ケアの倫理特論				
科目責任者	野里同					野里同					遠藤太					遠藤太				
担当者	野里同、高橋智弘					野里同、大間々真一					遠藤太、熊地美枝					遠藤太、熊地美枝				
会場	矢巾キャンパス					矢巾キャンパス					矢巾キャンパス					矢巾キャンパス				
区分等	区分	講義	単位	1	区分	講義	単位	2	区分	講義	単位	2	区分	講義	単位	1				
	回数	前期8コマ	配当年次	1	回数	前期15コマ	配当年次	1	回数	通年15コマ	配当年次	1・2	回数	後期8コマ	配当年次	1				
主な授業内容	高齢者の健康科学に関する知識					臨床で実践されているエビデンスに基づいたケアに関する知識					感情労働の理解と異和感の対自化による自らの感情の取り扱い方に関する知識と技術（メンタルヘルスケア・マネジメント）					ケアの実践における倫理的葛藤の解決法				
教育成果	高齢者の健康問題について学び、ヘルスプロモーションを図り、健康状態を維持・改善するための方策について考察することができる。					臨床の現場で実践されているケアの有効性を裏付けるための実証研究の手法および実証研究（エビデンス）に基づく新たなケアの構築に向けた研究の手法について学び、基本的知識を修得することができる。					対人援助職に要求される感情労働の特性や特徴、生じる種々の影響のほか、生じた異和感の対自化を行う中で、感情労働のポジティブな側面にも目を向けて、自らの「感情」と向き合っていく方策を修得することができる。					様々な分野における対人援助職に生じる倫理的ジレンマ（人権侵害・意思決定過程の問題・虐待等）を自覚し、倫理的な意思決定を行うための考え方、方策を修得することができる。				
コンピテンス番号/達成度	コンピテンス1 B	コンピテンス2 B	コンピテンス3 B	コンピテンス4 B	コンピテンス5 C	コンピテンス1 A	コンピテンス2 B	コンピテンス3 C	コンピテンス4 B	コンピテンス5 C	コンピテンス1 B	コンピテンス2 A	コンピテンス3 A	コンピテンス4 B	コンピテンス5 B	コンピテンス1 B	コンピテンス2 A	コンピテンス3 A	コンピテンス4 A	コンピテンス5 B
	コンピテンス6 B					コンピテンス6 B					コンピテンス6 A					コンピテンス6 A				
特記事項	各講義に対する事前事後学修は4時間程度を要し、内容は担当教員に確認すること。 全講義終了後は速やかに「受講票・履修報告書」をWeb Classにアップロードすること。 「受講票・履修報告書」の記載が不十分な場合は、担当教員がコメントをつけて返却するので、期日までに再提出すること。 ＜当該科目に関連する実務経験の有無＞有 大学病院等における看護師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。																			
評価方法	「受講票・履修報告書」により評価する。成績は、ABCD（A:100～80点、B:79～70点、C:69～60点、D:59～0点）の4段階評価とし、ABC（60点以上）を合格とする（60点未満は再提出）。																			
講義日程	時間割参照																			
教科書参考書											武井麻子:思いやる心は傷つきやすい:バンデミックの中の感情労働,創元社2021 宮本真巳:「異和感」と援助者アイデンティティ,日本看護協会出版会1996					アン・ギャラガー（宮内信治・小西恵美子訳）スローエシックスと看護のアート,南江堂2022.				

コード	MM12261180					MM12261190					MM12261200					MM12261210				
科目	コンサルテーション特論					地域包括ケア特論					ヘルスプロモーション特論					子ども保健医療福祉学特論				
科目責任者	熊地美枝					岩渕光子					岩渕光子					高橋亮				
担当者	熊地美枝、遠藤太、伊藤奈央					岩渕光子、下沖収					岩渕光子、山田哲也					高橋亮				
会場	矢巾キャンパス					矢巾キャンパス					矢巾キャンパス					矢巾キャンパス				
区分等	区分	講義	単位	2	区分	講義	単位	2	区分	講義	単位	1	区分	講義	単位	2				
	回数	通年15コマ	配当年次	1	回数	通年15コマ	配当年次	1・2	回数	後期8コマ	配当年次	1・2	回数	前期15コマ	配当年次	1				
主な授業内容	コンサルテーション活動を展開するための知識、技術					地域特性、地域包括ケア構築					健康行動とヘルスプロモーション 健康課題に対するアプローチ					医療機関・児童福祉施設・学校・保育園等における子どもへのケアと発達支援ならびに家族への支援				
教育成果	対人援助職におけるコンサルテーションの本質やコンサルタントの役割について学び、コンサルティ（相談者）のニーズや能力をふまえたアプローチを修得することができる。					へき地を含む地域の特性およびヘルスニーズをふまえ、地域に根ざしたケア体制づくりを進める方法を修得することができる。					人々の健康に関する行動を決定づける要因と背景への理解を深め、行動変容を促すための効果的な教育・環境アプローチを修得することができる。					子どもと家族を取り巻く社会や医療の現状に焦点をあて、その実態や背景、および保健・福祉・医療・教育における対応、課題について考察することで、保健医療福祉分野での援助が必要な子どもへの実践的な関りを創造することができる。				
コンビ・テンス番号/達成度	コンビ・テンス1	コンビ・テンス2	コンビ・テンス3	コンビ・テンス4	コンビ・テンス5	コンビ・テンス1	コンビ・テンス2	コンビ・テンス3	コンビ・テンス4	コンビ・テンス5	コンビ・テンス1	コンビ・テンス2	コンビ・テンス3	コンビ・テンス4	コンビ・テンス5	コンビ・テンス1	コンビ・テンス2	コンビ・テンス3	コンビ・テンス4	コンビ・テンス5
	B	A	A	A	A	－	C	－	B	－	－	C	－	B	－	B	B	－	C	C
	コンビ・テンス6					コンビ・テンス6					コンビ・テンス6					コンビ・テンス6				
	A					C					C					C				
特記事項	各講義に対する事前事後学修は4時間程度を要し、内容は担当教員に確認すること。 全講義後終了後は速やかに「受講票・履修報告書」をWeb Classにアップロードすること。 「受講票・履修報告書」の記載が不十分な場合は、担当教員がコメントをつけて返却するので、期日までに再提出すること。 ＜当該科目に関連する実務経験の有無 有＞ 大学病院等における看護師・医師や地域における保健師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。																			
評価方法	「受講票・履修報告書」により評価する。成績は、ABCD（A:100～80点、B:79～70点、C:69～60点、D:59～0点）の4段階評価とし、ABC（60点以上）を合格とする（60点未満は再提出）。																			
講義日程	時間割参照																			
教科書参考書																母子愛育会愛育研究所（編）、日本子ども資料年鑑2024、KTC中央出版、2025。				

コード	MM12261220					MM12261230					MM12261240					MM12261250				
科目	国際保健医療学特論					ウィメンズヘルスケア特論					健康情報学特論					子ども保健医療福祉学演習				
科目責任者	高橋亮					蛸崎奈津子					遠藤龍人					高橋亮				
担当者	高橋亮					蛸崎奈津子、遊田由希子、小山理恵					遠藤龍人					高橋亮				
会場	矢巾キャンパス					矢巾キャンパス					矢巾キャンパス					矢巾キャンパス				
区分等	区分	講義	単位	2		区分	講義	単位	2		区分	講義	単位	1		区分	演習	単位	2	
	回数	後期15コマ	配当年次	1・2		回数	後期15コマ	配当年次	1・2		回数	後期8コマ	配当年次	1		回数	通年15コマ	配当年次	2	
主な授業内容	国際保健活動の実態と課題					ウィメンズヘルスにまつわる諸概念の理解 現代社会における健康課題とその支援					総合診療におけるヘルスリテラシーと意思決定支援					子どもの保健医療福祉に関する事例検討、各種統計資料および論文抄読				
教育成果	国内外の保健医療の課題についてグローバルな視点から多角的かつ学際的に考察することで、国際保健学分野において専門職としての関わりを創造することができる。					マタニティケアやウィメンズヘルスケアにまつわる諸概念を多角的かつ学際的に考察することで現代社会における特有の健康課題を抱える対象への実践的な援助を創造することができる。					Evidence-Based Medicine（EBM）や臨床疫学の概念を学ぶことにより、健康や医療に関わる情報を客観的・批判的に吟味し、患者・支援者の意思決定を支援することができる総合診療専門職への導入基盤を形成できる。					子どもとその家族を支える保健・医療・福祉・教育に関する課題を抽出し、その背景や影響を考察する。また、事例検討等を通して、問題を抱えた子どもとその家族に対する実践的な援助案を立案、検討することができる。				
コンビ・テンス番号/達成度	コンビ・テンス1	コンビ・テンス2	コンビ・テンス3	コンビ・テンス4	コンビ・テンス5	コンビ・テンス1	コンビ・テンス2	コンビ・テンス3	コンビ・テンス4	コンビ・テンス5	コンビ・テンス1	コンビ・テンス2	コンビ・テンス3	コンビ・テンス4	コンビ・テンス5	コンビ・テンス1	コンビ・テンス2	コンビ・テンス3	コンビ・テンス4	コンビ・テンス5
	B	B	－	－	C	C	B	－	C	B	B	C	C	－	－	B	B	－	C	C
	コンビ・テンス6					コンビ・テンス6					コンビ・テンス6					コンビ・テンス6				
	B					B					B					B				
特記事項	各講義に対する事前事後学修は4時間程度を要し、内容は担当教員に確認すること。 全講義後終了後は速やかに「受講票・履修報告書」をWeb Classにアップロードすること。 「受講票・履修報告書」の記載が不十分な場合は、担当教員がコメントをつけて返却するので、期日までに再提出すること。 ＜当該科目に関連する実務経験の有無 有＞ 大学病院等における看護師・助産師・医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。																			
評価方法	「受講票・履修報告書」により評価する。成績は、ABCD（A:100～80点、B:79～70点、C:69～60点、D:59～0点）の4段階評価とし、ABC（60点以上）を合格とする（60点未満は再提出）。																			
講義日程	時間割参照																			
教科書参考書	日本国際保健医療学会（編）、実践グローバルヘルス：現場における実践力向上をめざして、杏林書院、2022。					エレン・F・オルシャンスキー（編著）・高橋真理他（監訳）、ウィメンズヘルスとウェルネス－ライフスパンの視点からのアプローチ－、ゆう書房、2017。					中山健夫、健康・医療の情報を読み解く 健康情報学への招待、第2版、東京、丸善出版、2019					母子愛育会愛育研究所（編）、日本子ども資料年鑑2024、KTC中央出版、2025。				

●各科目の授業計画

地域総合医学 保健医療福祉コース

コード	MM12261260				MM12261270				MM12261280							
科目	国際保健医療学演習				保健医療福祉課題解決演習Ⅰ				保健医療福祉課題解決演習Ⅱ							
科目責任者	高橋亮				各（正）指導教員				各（正）指導教員							
担当者	高橋亮				各指導教員				各指導教員							
会場	矢巾キャンパス				矢巾キャンパス				矢巾キャンパス							
区分等	区分	演習	単位	2	区分	演習	単位	2	区分	演習	単位	2				
	回数	通年15コマ	配当年次	2	回数	通年15コマ	配当年次	1・2	回数	通年15コマ	配当年次	1・2				
主な授業内容	国際保健医療に関する事例検討、各種統計資料および論文抄読				保健医療福祉分野における関心領域の国内外の文献学習とクリティーク 保健医療福祉分野における関心領域の研究手法の探索				自己の特別研究と関連する保健医療福祉分野における国内外の文献学習とクリティーク 自己の特別研究と関連する保健医療福祉分野における研究手法の検討							
教育成果	グローバルな視点から抽出した健康課題とその背景について実際の事例や報告等から実践的に学び、国際情勢や異文化理解と関連付けて考察することができる。				保健医療福祉分野における関心領域の国内外の文献学習、クリティークについて学び、自己の特別研究に関連する保健医療福祉分野での研究課題を探索し発信することで、研究課題を焦点化することに到達する。				自己の特別研究と関連する保健医療福祉分野における研究方法を検討することで、具体的な研究方法を立案し研究を実施することに到達する。							
コピー番号/達成度	コピー 1 B	コピー 2 B	コピー 3 C	コピー 4 C	コピー 5 C	コピー 1 B	コピー 2 B	コピー 3 B	コピー 4 —	コピー 5 —	コピー 1 B	コピー 2 B	コピー 3 B	コピー 4 —	コピー 5 —	
	コピー 6 B					コピー 6 B					コピー 6 A					
特記事項	各講義に対する事前事後学習は4時間程度を要し、内容は担当教員に確認すること。 全講義終了後は速やかに「受講票・履修報告書」をWebClassにアップロードすること。 「受講票・履修報告書」の記載が不十分な場合は、担当教員がコメントをつけて返却するので、期日までに再提出すること。 ＜当該科目に関連する実務経験の有無 有＞ 大学病院等における看護師・医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。															
評価方法	「受講票・履修報告書」により評価する。成績は、ABCD（A:100～80点、B:79～70点、C:69～60点、D:59～0点）の4段階評価とし、ABC（60点以上）を合格とする（60点未満は再提出）。															
講義日程	時間割参照															
教科書参考書																

コード	MM12269010				MM12269020													
科目	特別研究Ⅰ				特別研究Ⅱ													
科目責任者	各（正）指導教員				各（正）指導教員													
担当者	各指導教員				各指導教員													
会場	各指導教員と相談の上決定				各指導教員と相談の上決定													
区分等	区分	演習	単位	2	区分	演習	単位	2										
	回数	通年15コマ	配当年次	1	回数	通年15コマ	配当年次	2										
主な授業内容	・生命科学や研究手法の基礎的な知識 ・研究計画調査の作成 ・中間審査の準備				・生命科学や研究手法の専門的、発展的な知識 ・論文作成 ・最終試験の準備													
教育成果	生命科学や研究手法の基礎的な知識を身につける。研究内容の討議を行い、質問に対し、適切に答えることができる。 ＜中間審査＞ 1年次末までに実施。 研究指導教員同席のもと非公開で実施する。研究計画調査に基づき、研究の概要及び進捗状況について口答で説明し、現在に至るまでの過程及び初期審査時の目標の達成度等について審査を受け、今後の研究の進め方について指導を受ける。				生命科学や研究手法の専門的な知識を身につける。最終試験に向けて、情報を適切に分析し、論旨を展開できる。 ＜論文作成＞ 学位申請までに実施。 論文作成に向けたデータ収集や解釈、図譜の作成や記載ができ、論文が作成できる。													
コンピテンシ番号/達成度	コンピテンシ1 B	コンピテンシ2 B	コンピテンシ3 B	コンピテンシ4 B	コンピテンシ5 B	コンピテンシ1 A	コンピテンシ2 A	コンピテンシ3 A	コンピテンシ4 A	コンピテンシ5 A								
	コンピテンシ6 B					コンピテンシ6 A												
特記事項	各講義に対する事前事後学修は4時間程度を要し、内容は担当教員に確認すること。 中間審査の詳細は、「中間審査の手引き」を参照。				各講義に対する事前事後学修は4時間程度を要し、内容は担当教員に確認すること。 最終試験の詳細は、「最終試験の手引き」を参照。													
評価方法	「受講票」により総合的に評価する。成績は、ABCD（A:100～80点、B:79～70点、C:69～60点、D:59～0点）の4段階評価とし、ABC（60点以上）を合格とする（60点未満は再提出）。																	
講義日程																		
教科書 参考書																		

●時間割

地域総合医学 保健医療福祉コース

【前期】 講義時間		月	火	水	木	金	土
1 限	8：50～10：20						基礎科目
2 限	10：30～12：00						
3 限	13：00～14：30						
4 限	14：40～16：10		保健医療福祉組織管理特論		保健医療福祉人材管理特論	地域医療学1・2	
5 限	18：00～19：30	臨床実践ケア特論	緩和ケア特論	コンサルテーション特論	総合診療医学1・2	メンタルヘルスケア特論	
			高齢者健康科学特論	保健医療福祉課題解決演習Ⅰ・Ⅱ	子ども保健医療福祉学特論		子ども保健医療福祉学演習
6 限	19：40～21：10	地域包括ケア特論	ヘルスコミュニケーション演習	ヘルスコミュニケーション特論	保健医療福祉経営資源管理特論	特別研究Ⅰ・Ⅱ	国際保健医療学演習
【後期】 講義時間		月	火	水	木	金	土
1 限	8：50～10：20						基礎科目
2 限	10：30～12：00						
3 限	13：00～14：30						
4 限	14：40～16：10		保健医療福祉組織管理特論	ヘルスコミュニケーション特論	保健医療福祉人材管理特論	地域医療学1・2	保健医療福祉情報管理特論
5 限	18：00～19：30	ウィメンズヘルスケア特論	緩和ケア特論	コンサルテーション特論	総合診療医学1・2	健康情報学特論	
				ケアの倫理特論	国際保健医療学特論		子ども保健医療福祉学演習
6 限	19：40～21：10	地域包括ケア特論	ヘルスコミュニケーション演習/ ヘルスプロモーション特論	保健医療福祉課題解決演習Ⅰ・Ⅱ	保健医療福祉経営資源管理特論	特別研究Ⅰ・Ⅱ	国際保健医療学演習

※時間割の調整については相談に応じます。

<履修スケジュール> ※各自記録してください。

【前期】 講義時間		月	火	水	木	金	土
1 限	8：50～10：20						
2 限	10：30～12：00						
3 限	13：00～14：30						
4 限	14：40～16：10						
5 限	18：00～19：30						
6 限	19：40～21：10						

【後期】 講義時間		月	火	水	木	金	土
1 限	8：50～10：20						
2 限	10：30～12：00						
3 限	13：00～14：30						
4 限	14：40～16：10						
5 限	18：00～19：30						
6 限	19：40～21：10						